

## 第3章 これまでの中心市街地活性化の取組

中心市街地のまちづくりの歴史を振り返るとともに、平成30年度から令和4年度までを計画期間とする「中心市街地活性化つながるまちづくりプラン」の取組の総括や、残された課題について整理します。

### 3-1 まちづくりの歴史

#### ■ 中心市街地の骨格

中心市街地の骨格ができたのは、今からおよそ400年前の慶長年間、南部家26代信直公が現在の盛岡城跡公園の地において鋤初（すきそめ・起工式に相当）をしたことに始まります。

町割りを五の字にし、商家や職人町が城を囲み、その外側に侍屋敷などを配置した城下町は、当時としては新しい考え方のまちづくりでした。

中心市街地の東側に位置する河南地区（現在の肴町・八幡町・鉈屋町界限）は、川を使った江戸との交易により「盛岡二十三町」として城下盛岡藩の経済を支え、大いに栄えました。



城下町としての成り立ち（盛岡城下古図絵）

#### ■ 明治期以降のまちづくり

明治23年、当時の盛岡の市街地から離れたところに駅舎が建設されます。これを契機として、中心市街地西側の盛岡駅前地区に商店街が出来はじめ、駅と市の中心街を結ぶ開運橋などの整備が進められました。

昭和初期には、盛岡駅前地区と河南地区との中間に位置する県立農学校敷地と実習田が民間開発により分譲され現在の大通地区となりました。

こうして、河南地区、大通地区、盛岡駅前地区の3つの核となる商店街ができ上がり、また、昭和57年には東北新幹線盛岡・大宮間が開通し、これにより首都圏と短時間で結ばれ、盛岡駅から大通・肴町を含めた河南地区を結ぶ市中心部は大きな発展を遂げていきます。

#### ■ 中心市街地の歴史的資源

このように発展してきた中心市街地には、歴史的及び文化的資源が数多く残っています。特に、中心市街地の中央部にある「盛岡城跡公園」は、旧盛岡城の城跡として、勇壮な石垣が訪れる人の目を楽しませており、会津、白河と共に、東北三名城の一つに数えられています。

他にも、中ノ橋通地区に立地する「岩手銀行旧本店本館『岩手銀行赤レンガ館』」、「もりおか啄木・賢治青春館（旧第九十銀行）」は共に国の重要文化財に指定されている歴史的建造物であり、市民や観光客に親しまれているほか、材木町地区は、宮沢賢治ゆかりの地として民芸店等が集積し、文化的な街並みを形成しています。

## 3-2 中心市街地活性化つながるまちづくりプランの取組

### ■ 中心市街地活性化つながるまちづくりプランの概要

第2期盛岡市中心市街地活性化基本計画（平成25～29年度）において、未着手または未完了となった施設整備事業などを実施するほか、居住人口と交流人口を増加させ中心市街地の回遊性を高めるとともに、既存ストックを有効に活用し、コンパクトで持続可能なまちづくりを目指し、平成30年4月から令和5年3月までの計画期間において78事業を計画に掲げ取組を行いました。

### ■ 盛岡バスセンター整備事業

平成28年に閉鎖した旧盛岡バスセンターの所在地に、民間活力の導入を図りながら新たなバスセンターを整備し、令和4年10月4日に開業しました。

「バスターミナル機能」と「賑わい機能」を併せ持つ施設として整備し、河南地区を中心とした中心市街地に訪れやすい環境を整えるとともに、賑わいの創出に貢献しています。



### ■ 公募設置管理制度を活用した公園整備事業（木伏緑地）

飲食店等の民間収益施設と市が整備費用を負担する公衆トイレを民間事業者が一体的に整備し、令和元年度に開業しました。

官民が連携して公園利用者の利便性を向上し、新たな賑わい空間を創出することで、公園利用者や観光客の増加、まちなかの魅力の向上に繋がっています。

### ■ 商店街活性化関連事業（大通りお弁当パラダイス等）

商店街をステージとして、市民等が主体となり、企画・実施する事業により、商店街を商業・サービス業の場としてだけでなく、市民共有の公共の場・企画発表の場として活用し、商店街の賑わい作りに繋がっています。



### ■ もりおかイルミネーションブライト

中心市街地における新たな誘客促進施策として、街なかでのイルミネーションイベントを開催することにより、観光客入込数が減少する冬季間における街なかの賑わい創出と、新型コロナウイルス感染症により、落ち込んだ地域経済の回復に向けた消費喚起に貢献しています。

### ■ 中心市街地活性化つながるまちづくりプランの実施の効果

新型コロナウイルス感染症の影響や新しい生活様式の定着により、計画通りに進行していないソフト事業も多く、目標達成指数のみをもって、計画全体の効果を測ることが難しい状況です。

また、同感染症の影響を受けながらも、各所では商店街イベント等の実施や賑わい施設等の整備により、一定の賑わいを創出していますが、それらのイベントや施設等を起点とした近隣の地区への賑わいの波及・回遊性の向上については、十分ではないといえます。

## ■ 目標達成状況の総括

### 「中心市街地の歩行者・自転車通行量」(※8地点)

新型コロナウイルス感染症の拡大や原油・物価高騰による影響が懸念される中で、効果的な集客や中心市街地への来街者の増加に繋げるため、商店街イベント等の開催内容の工夫や新たな賑わい施設等の整備が行われたことにより、目標値には至らなかったものの、同感染症の拡大下であっても、中心市街地の通行量の推移は横ばいの傾向を維持することが出来たものと考えられます。

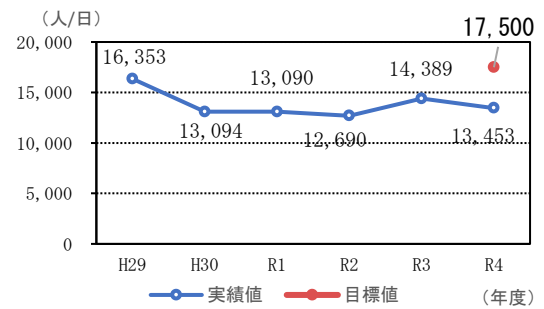


図-2 中心市街地の歩行者・自転車通行量の推移

### 「中心市街地の居住人口」

中心市街地の居住人口は目標値には至らなかったものの、マンション建設が進んだことなどにより、ここ数年は横ばいで推移している。大型の拠点施設が相次いで撤退した内丸地区・河南地区において、回遊性の低下などの影響が出ているが、複合商業施設 monaka (もなか) の整備や令和4年10月の盛岡バスセンターの開業により、街なかの新たな魅力が生まれ、居住者の増加に繋がることが期待されています。

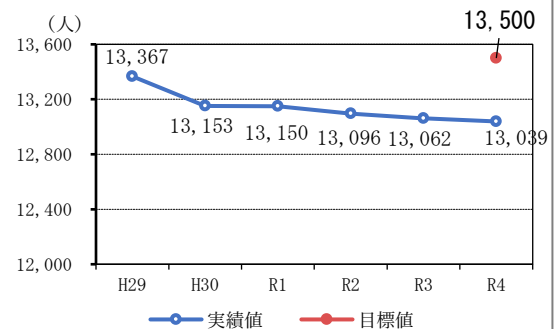


図-3 中心市街地の居住人口の推移

### 「盛岡市街の観光客入込数(日帰り・宿泊客数)」

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う、インバウンドの消滅、旅行の自粛、各種イベントの中止などの影響により、同感染症以前の目標値に対する実績値は大きく下回っている状況ですが、行動制限等の規制緩和や令和5年1月のニューヨークタイムズ紙に盛岡市が掲載された反響などの好材料も数多く存在していることから、盛岡の関係人口を増やすための取組の継続的な実施が重要であると考えられます。

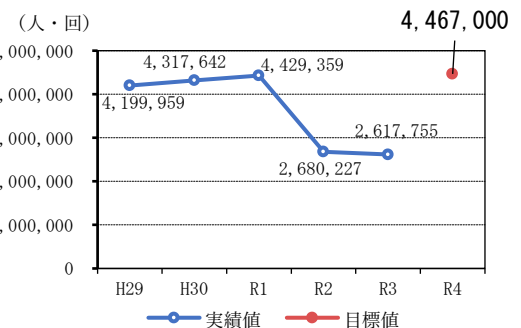


図-4 盛岡市街の観光客入込数

## ■ 中心市街地活性化つながるまちづくりプランの課題

新型コロナウイルス感染症の拡大や原油・物価高騰の影響により、各指標において、当初の目標値に対する実績値のみをもって、計画全体での効果を測ることは難しい状況となっており、特に、「盛岡市街の観光客入込数」については、同感染症の拡大や長期化による影響が非常に大きく、事業進捗から事業効果を正しく評価することが困難な状況が続きました。

令和5年5月には、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行されたことに伴い、全国的にも、市街地における人流の増加や各種イベントの開催、インバウンド需要等の回復が見込まれていることから、そのような動向を踏まえた上で、官民連携による中心市街地における歩行者中心のまちづくりの推進や、来街者や旅行者を増やすために効果的な取組を早期に実施するとともに、第1期中心市街地活性化つながるまちづくりプランにおいて、着手することが出来なかった事業を着実に推進していく必要があります。